

平成 29 年 5 月 29 日現在

機関番号：82602

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26671050

研究課題名(和文) ソーシャル・キャピタルの住民組織活動に参加する住民のエスノグラフィー

研究課題名(英文) The Meanings of Participation in the Community Activities for People.

研究代表者

川崎 千恵 (Kawasaki, Chie)

国立保健医療科学院・その他部局等・主任研究官

研究者番号：80648212

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、住民にとって地域活動に参加することの意味や住民の活動への認識を明らかにすることを目的とした。2つの地域において、地域活動に参加する高齢者を対象にエスノグラフィー法による研究を行うとともに、乳幼児を育てる母親を対象に質的記述的研究と量的研究を行った。研究の結果、地域活動へ参加することの意味や、活動への認識として地域活動に参加することでもたらされると認識していること、母親を対象とする地域活動に備わる機能が明らかになった。高齢者や母親にとって参加することの意味や活動への認識には、地域の社会的文脈や人口学的要因、個人的要因が関連し、これらの背景に目を向けることの重要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study explores what it means for elderly people and mothers to participate in the community activities. I conducted ethnographic research of elderly people who actively participated in community activities in two communities. And additionally, I conducted semi-structured interviews with mothers who actively participated in community activities, and surveyed on perception of mothers. I got results on the meanings of participation, perception on what they obtained, and functions of community activities. Social context and antecedent factors were found to be related to meanings and perception.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：地域活動 ソーシャル・キャピタル 高齢者 母親 育児 コミュニティ

1. 研究開始当初の背景

近年我が国では、地域や地域の人びと、他者との相互のつながりが希薄で、頼りにする相手がいない「孤立」の状態にあることが問題とされており、「孤立」が生み出す健康課題には自殺、児童虐待、孤独死など様々なものがみられる。ソーシャル・キャピタルに関する社会疫学研究が進展し、政策にも取り入れられ、現在多くの自治体で地域サロンなどの居場所づくりや地域活動の推進による、ソーシャル・キャピタルの醸成が行われている。しかし、人びとにとっての居場所や地域活動への参加の意味、活動に参加することで何がもたらされるかについての認識などは明らかにされていない。

2. 研究の目的

地域特性の異なる複数のコミュニティにおける、住民にとっての活動に参加することの意味や住民の活動への認識を明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

対象者を高齢者、乳幼児を育てる母親とし、異なる研究方法で研究を行った。

【高齢者】

1つの市町村内の、地域特性の異なる2つの地域で、地域活動に参加する高齢者を対象に、それぞれの地域でエスノグラフィー法を用いた研究を行った。

A. 研究対象

ソーシャル・キャピタルの醸成を図りながら、活動が発展している地域活動(2か所)に参加している人びとと、その地域を対象とした。これらの地域活動に参加している人びとのうち、研究協力に同意を得られた者を研究協力者とした。

B. 研究方法

研究の行程は、Spradley(1980)の手順を参考にし、参加観察とインタビュー調査の実施、分析を段階的に繰り返し、エスノグラフィーを記述した。

参加観察では、活動の場や配置されているもの、活動の状況(活動内容、参加者数、開始・終了時間、役割、参加者の行為など)、人びとの相互の交わりや反応、人びとの変化、場の雰囲気、活動組織に特有の文化、参加者が共有している地域の文化などを観察し、随時フィールドノートに記述した。また、研究への協力の意思のあった者、各地域10~12人に半構造化インタビュー調査を行い、データを収集した。インタビューは研究者が作成したインタビューガイドを用いて、1人約60分、1回~2回行った。その他、地区踏査を行うとともに、地区の基礎情報や、文化・歴史などに関連する既存資料を調査し、情報をフィールドノートに記載し、参加観察およびインタビューデータの裏付けとして分析に用いた。データ分析は、焦点化・選択化していく複数回の参加観察の過程で、参加観察の内容を記載したフィールドノートのデータおよびインタビューにより得られたデータについて、段階的に分析を行った。

C. 結果

同じ市町村内にある、歴史や文化、地理的環境の異なる地域では、地域活動に参加する高齢者が活動に参加することの意味や、活動についての認識は全く異なっていた。地理的環境などの社会的文脈が、2つの地域の高齢者の特性に関連しており、地域活動への参加の背景には、それぞれの地域の高齢者の特性や、人びとが共有している文化が存在し、活動への参加の意味に表れていた。また、高齢者が地域活動に参加することにより、ネットワーク、互酬性、情緒的サポートなどのソーシャル・キャピタルが醸成される可能性が示唆された。地域活動によるソーシャル・キャピタルの醸成を図るうえで、地域の地理的特徴や文化、高齢者の生活史、ソーシャル・キャピタルが減耗したと考えられる場合には、その経緯に目を向けることの重要性も示唆された。

【乳幼児を育てる母親】

異なる3つの地域の地域活動に参加する乳幼児を育てる母親を対象に、参加することによりインタビューによる質的記述的研究を行った。また、その結果の汎用性を確認し、効果をもたらす地域活動の特性を明らかにするために、質問紙調査による量的研究を行った。

質的記述的研究

A. 研究対象

異なる3つの地域活動に参加する、乳幼児を育てる母親のうち、研究協力を同意を得られた者を研究協力者とした。

B. 研究方法

地域とのつながりを生むことを活動の目的の1つとしている地域活動に参加している、乳幼児を育てる母親を対象としたインタビューによる、質的記述的研究を行った。研究の協力を得られた母親11人に半構造化インタビュー調査を行い、データを収集した。インタビューは研究者が作成したインタビューガイドを用いて、1人約60分、1回行った。得られたデータは質的帰納的に分析し、サブカテゴリー、カテゴリーを抽出し、カテゴリーを構造化した。

C. 結果

地域活動への参加に至る背景、地域活動に参加することによりもたらされたもの、地域活動の特性の3つのテーマについて、それぞれカテゴリー、サブカテゴリーが抽出された。乳幼児の母親にとって地域活動への参加は、気持ちのゆとりや育児の自信、地域の人とのつながり、不安の軽減、地域の人への信頼などをもたらすものであると認識していた。また地域活動には、母親のニーズを満たす、気持ちや経験を共有しつつつながりを築けるようにする、気持ちを軽くする、力を得られるようにするなどの、5つのカテゴリーで表される特性(形態と機能)があると認識していた。乳幼児をもつ母親は、地域交流活動への参加

について、育児や精神的・社会的健康に変化や効果をもたらすと認識していた。また、母親が認識した地域活動の特性は、既存の概念であるセルフヘルプ・グループ、エンパワメント、認知的ソーシャル・キャピタルなどの機能を実体化しているものであることが示唆された。

質問紙調査による量的研究

A. 研究対象

母親の育児支援と地域の人とのつながりを築くことを主目的とする地域活動に継続して5回以上参加している乳幼児を育てる母親のうち、研究協力を同意を得られた者を研究協力者とした。

B. 研究方法

の質的記述的研究の結果から、参加する背景(先行要因)、地域活動の特性(形態と機能)、母親が認識していた活動への参加によりもたらされるもの(アウトカム)について仮説を作成した。仮説に基づき作成した質問紙(計104項目、の研究結果より作成した、地域活動の特性(機能)を測定する5つの下位尺度からなる『地域活動機能尺度』45項目を含む)を、協力を得られた首都圏近郊の地域活動に郵送もしくは持参し、対象者に配布してもらった。対象者が回答しやすいように、郵送法、Webアンケートシステム、留め置き法の3つを併用した。

C. 結果

回収数405(回収率36.8%)のうち、379人を分析対象とした(有効回答率93.5%)。平均年齢は33.6歳で、核家族が91.6%、専業主婦が69.9%と最も多く、活動に参加している期間は1年以上が43.5%と最も多かった。確認的因子分析の結果、『地域活動機能尺度』の5つの下位尺度、『グループ・セラピー』『母親の自己の回復』『母親へのサポート』『母親のソーシャル・キャピタル』『地域や地域の人とのつながり』のモデルの適合、信

頼性が確認された。地域活動の特性（機能）を表す、これらの下位尺度を構成する 31 項目（全項目の 7 割）で、70%以上の母親が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、実際に地域活動に参加する母親は、地域活動にはこれら 5 つの機能が働いていると認識していることが示された。

またアウトカムとして測定した、育児肯定感、生活満足感、孤独感について、70%以上の母親が肯定的な認識を表す「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、地域活動に参加する母親は、育児肯定感、生活満足感、孤独感といった自分の育児や現在の気持ちについて、肯定的に認識していることが示された。

さらに共分散構造分析の結果、『地域活動機能尺度』で測定した 5 つの機能は、直接・間接的に他の機能と関連し合いながら働くことが確認された。母親の先行要因や地域活動の形態の影響を取り除き、地域活動の機能とアウトカムの関係について重回帰分析を行った結果、単回帰分析でみられた機能とアウトカムの関連の多くは確認されなかったが、『地域や地域の人とのつながり』など 4 つの機能がアウトカムと関連していた。これらのことから、地域活動の機能とアウトカムの間に有意な関連が示され、地域活動の 5 つの機能は単独で働くのではなく、他の機能の影響を受けながら、アウトカムに関連することが示唆された。地域活動がもたらす効果は、子育て、精神的・社会的側面の健康と多岐にわたり、子育て支援や児童虐待防止の方策として有効であると考えられた。

4．研究成果

高齢者と乳幼児を育てる母親を対象とした研究の結果から、地域活動へ参加することの意味や、活動への認識として、地域活動に参加することでもたらされると認識していることが明らかになった。

母親が参加する地域活動には、共通する機

能が備わっており、母親が認識するアウトカムと関連があることがわかった。

また、地域活動へ参加することの意味や地域活動に参加することでもたらされると認識していることには、地域の社会的文脈や、人口学的要因、個人的要因が関連し、これらの背景に目を向けることの重要性が示唆された。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

川崎千恵, 乳幼児を育てる母親が認識する地域活動への参加によりもたらされたものと地域活動の特性, 日本公衆衛生看護学会誌, 6(1), 印刷中, 2017. (査読有)

〔学会発表〕（計 2 件）

川崎千恵, 高齢者にとって地域活動に参加するということ, 日本公衆衛生看護学会, 2017 年 1 月 23 日, 仙台

Chie Kawasaki, What benefits did mothers receive by participating in community activities and characteristics of these activities, The 24th Global Nursing & Healthcare Conference, March 1-2th. 2017, Amsterdam, Netherlands.

〔産業財産権〕
なし

〔その他〕
ホームページ等
なし

6．研究組織

（1）研究代表者

川崎 千恵 (KAWASAKI Chie)

国立保健医療科学院生涯健康研究部主任研究官

研究者番号:80648212